



千秋楽祝賀会で延岡後援会の稲田会長らと笑顔で話す琴恵光関



琴恵光関の千秋楽の取組を見つめる正倫さん(左)と多美さん(左から2人目)

琴恵光、力付いた 名古屋で千秋楽祝賀会

大相撲名古屋場所の佐渡ヶ嶽部屋の千秋楽祝賀会が21日、愛知県名古屋市の名古屋グランドホテルで約300人が出席して、盛大に開催された。延岡後援会の稲田義美会長、甲斐泰文副会長、岩切隆徳事務局長も延岡から駆け付け、琴恵光関の9勝を祝福した。佐渡ヶ嶽親方の謝辞、二藤部洋同部屋後援会

長はあいさつで琴恵光関の健闘をたたえた。琴恵光関は、会場で出席者との記念撮影やサインなど丁寧に対応していた。稲田会長は「幕内で立派にやっていける力は付いたと来場所に期待した。連続勝ち越し、褒めてあげたい」と激励した。琴恵光関の両親、山下

町のちゃんこ松恵では21日、後援会の関係者と父正倫さん(55)と母多美さん(56)が千秋楽の取組を見守った。体重差が90キ以上もある逸ノ城にはさすがに力負け。幕内での二桁勝利はかなわなかった。それでも2場所連続での勝ち越しに、9勝を挙げたことに、正倫さんは「15日間良い相撲を見せて

てもらいました。逸ノ城はスケールが違うので押し出されましたが、大きい相手を慌てさせたり、左右に動いたりして勝機をつかむのは今後の課題。琴恵光も研究されていると思うが、そんな中で対戦相手に応じた、一つ上の相撲が取れたことは良かった。これからも一つ一つ自分の形を磨いて、今の位置を確立して

もらえればいい。」多美さんは「4連敗した後、その反省を生かした7連勝。今場所は番付が上がったので嬉しいと思っていました。2場所連続で勝ち越してくれたい。たくさんの応援をいただいているのを本人も自覚しているので頑張ったんだと思います」と振り返った。